

■知的障害のある子どもたちへの実践事例

詩に親しもう！

～マルチメディアDAISY図書を活用して

鳥取大学附属特別支援学校
司書教諭 村上 佳代
学校司書 入川 加代子

はじめに

本校は「豊かな心をもち、生活を楽しむ子」を教育目標に、子どもたちの生活が豊かなものになるようにと願い、日々の教育実践に取り組んでいます。

読書活動を通して、①本を読むことの楽しさを味わうとともに、進んで本に親しもうとする態度を育成すること

②図書館活用を通して、自分の知りたい情報を収集して知識を広げ、収集した情報を学習や自分の生活に役立てる力を育てること ③文化や情報を得る機会と読書の楽しみを保障していくこと、以上3点を本校図書館教育の目標に掲げています。

本実践は、中学部2年生5名（男子：3名、女子：2名）を対象に行った学習について紹介します。

生徒の実態

生徒の実態は、知的障害と併せて自閉スペクトラム症などさまざまな障害を有し、発達の程度も幅のある学級です。朝の読書の時間に生徒たちが読ん

でいる本は、絵本から車など好きなものの雑誌、アニメに関する本などです。余暇に漫画を読むのが好きな生徒もいますが、本を手に取り余暇として読書をするといった様子はなかなか見られませんでした。また小学校2年生程度の漢字の読み書きを学習しているものの、漢字に苦手意識がある生徒が多く、読むことができても積極的に使おうとしない様子や、避けるような様子さえ見られます。

以上のような実態をふまえ、長い文章は、苦手意識が強くハードルが高いようなので、詩のような短い文章のほうが親しみをもてるのではないかと考えました。そこで、短い文章や物語を読んで理解を深めたり、感想や意見を言い合ったりするような学習を取り入れたいと思いました。

マルチメディアDAISY図書の表示された文書を音声で聞きながら目で追うことができる特徴を活かすことで、学習のねらいを効果的に伝えることができると考え、今回の実践をしました。

研究の目的

2022年11月に「詩に親しもう！～マルチメディアDAISY図書を活用して」という学習を行いました。

小学校までは物語や説明文などを読み、書かれている内容を理解する学習を重ねてきたと思いますが、本校中学部では個々の課題に沿った学習を多く設定しており、ひとつのお話を一緒に読み解いていくといった学習をする経験は少ないため、文章で書かれた「お話」に触れる機会を作りたいと考え学習を設定しました。理解を深める手段として、マルチメディアDAISY図書を随所に活用することとしました。

実際の取り組み（学習の流れと生徒の様子）

（1）詩に親しもう

課題学習 中学部 2年

<ねらい>

- ・ 詩の内容を理解し、イメージを共有したり広げたりする。
- ・ 詩の世界観を楽しむ。



谷川俊太郎 自選詩集『そして』
下田昌克・絵 銀の鈴社

<学習の流れと生徒の様子>

（詩全文）谷川俊太郎 自選詩集『そして』より

なんにもしないで いようとおもって
おかねもちの はくしゃくふじんは
めしつかいを よんだ
なんにもおもまがやっておくれ といって
はくしゃくふじんは いすにすわったが
いすにすわれば いすにすわって
なんにもしないことには ならなかった
たちあがると はくしゃくふじんはたつて
よこになると よこになつて
ぼんやりすると ぼんやりしていた
なんにもしないのが とてもむずかしいので
めしつかいをよんで ふじんはいつた
なんにもしたくないから かんがえておくれ

【学習の工夫】

- ① 4つの“ミッション”という形で学習内容を構成する。
- ② イメージを共有したり、広げたりすることにつながるようにイラストを入れる。
- ③ 視覚的支援として、スライドと、板書、ワークシートを用いる。
- ④ ミッションの中にマルチメディアDAISY図書を「聞く」ことでわかる問い、「目で追い、耳で聞く」ことでわかる問いを入れる。

【ミッション①】 に入る人を表す言葉は何でしょうか。

【理解し、イメージの共有をする】

☆予想を立てたあと、マルチメディアDAISY図書を聞く。

なんにもしないで いようとおもって
おかねもちの は
めしつかいを よんだ
なんにもおもまがやっておくれ といって
いすにすわれば は いすにすわったが
なんにもしないことには ならなかった
たちあがると は たつて
よこになると よこになつて
ぼんやりすると ぼんやりしていた
なんにもしないのが とてもむずかしいので
めしつかいをよんで ふじんはいつた

ミッション①

人であらわず
おなじことばが入ります。
さて、それはなんでしょう？

① しようじよ
② はくしゃくふじん
③ おうさま
④ てんし

生徒の予想は、①が1人、②が2人、③が1人でした。その理由を問うと、②は「いすにすわっている」の場面が思い浮かんだという意見、③は「おかねもち」という言葉のイメージからそう感じたという意見がでました。友達の意見を聞き、①を選んだ生徒は、はじめは「なんとなく選んだ」と言い、友達の意見を聞いたあと「やっぱりはくしゃくふじんかなあ」とつぶやく声が聞こえました。

そして初めてマルチメディアDAISY図書の音声のみを聞かせて答えを知らせました。すると、耳をすませて「ああ」「やっぱり…」などの言葉が聞こえてきました。

ミッション② なんにもしたくないとき、あなたならどうしますか。

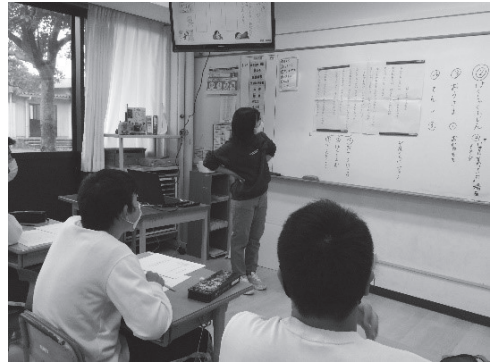
【イメージを膨らませる・共感する】

ミッション②

○さんバージョン

なんにもしたくないとき、あなたならどうしますか？
3つかきだしてみよう。

詩の途中から、生徒の作った文章をあてはめ、声に出して読み上げました。「〇〇すると 〇〇していた」の言葉の繰り返しを理解し、それを楽しもうとする姿が見られました。



ミッション③ この詩の最後に2行文章がかくれています。さて、ふじんはめしつかいになんと言ったでしょう。

【流れを理解し、予想を立てる】

☆予想を立てたあと、マルチメディアDAISY図書を視聴する。

ミッション③

この詩の最後に2行文章がかくれています

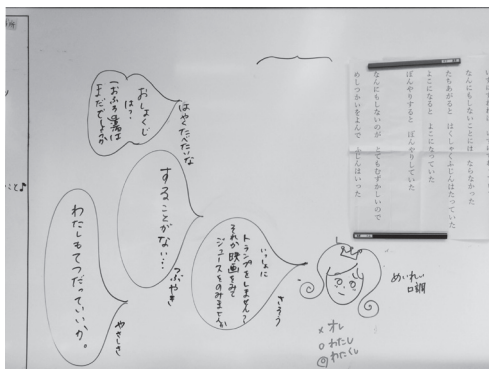
さて
ふじんはめしつかいになんと言ったでしょう。

生徒たちには、最後の2文を隠して提示し、予想を立てさせました。正解を狙うものではありませんが、話を理解していないと予想を立てることはできません。生徒はどんなことを書いてくれるのかドキドキした問いかけでもありました。「いっしょにトランプをしましょう。」といった誘いの言葉や「わ

たしもてつだっていいか。」と、何もすることがないなら自分は何かするほうがいいといった意見。

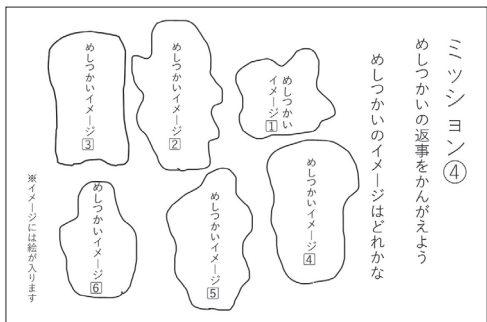
また、「しょくじはまだか。(風呂の湯はまだか。」といった、さらに用事を言いつけるなど、さまざまな言葉を想像し発表することができました。

一番驚いたことは、はくしゃくふじんになりきって言葉尻の言い方を変えていたことです。短い詩の限られた情報の中で、生徒たちがイメージを膨らませ、自分なりに解釈し“こんな話し方をするのではないか”ということを考えてことがわかりました。



ミッション④ めしつかいの返事を考えよう

【イメージを膨らませ、詩の世界観を楽しむ】



めしつかいと一括りに言っても「みんなのイメージするめしつかいはどれかな」と問いかけました。そしてそのイメージするめしつかいに話をさせることで、次はめしつかいの目線でとらえるようにしました。今度は丁寧な言葉で「かしこまりました。」や「では、旅行なんてどうでしょう。行きたいところでもいいですよ。」と提案してみたり、「高層ビル的高级フレンチを食べに行きましょう。」などの誘いかけをしたりと、こちらの想像をはるかに超える発想豊かな意見があふれました。

(2) 司書による詩と詩集の紹介

学習の最後に、司書による詩の朗読と詩集の紹介を行いました。学習では、ユニークで、しかもストーリーになっているものを取り上げましたが、朗読では情景の感じられる同じ著者の『あさ／朝』『ゆう／夕』の詩集から一部抜粋し紹介しました。

生徒たちは、朗読に耳を傾けイメージをし、最後に「この詩のページはこんな写真とともに載っています」と紹介されると、自分の思い描いたイメージに重ね合わせている様子でした。

<生徒たちの学習の様子>

ふだんの学習とは違った学習に取り組むことで、抵抗を示すのではないかと予想していましたが、思っていたよ

り抵抗感なく学習に参加する様子が見られました。

マルチメディアDAISY図書を 活用して

◎選書・支援

構想の段階では、内容がむずかしいのではないかと意見が出ましたが、いかにむずかしさを感じさせないようにするかを念頭に置きつつ、生徒の反応を見て問いかけも方向性も変更することを想定し、学習をスタートしました。マルチメディアDAISY図書を活用し、書かれている内容が理解できれば、イメージしやすいのではないかと考え、この詩を扱いたいと考えました。漢字がなく、一文が短く、かつ全体の量も短くなっており、生徒にとって抵抗感が少なく読める内容であるとも感じました。題名でもある「伯爵夫人」は、生徒にとって馴染みのない言葉であり、簡単な解説を絵や写真を交えながら伝えることで、イメージが持てるような工夫もしていきました。

また、自由に意見を発表し合える雰囲気づくりに努め、発表が恥ずかしい生徒には教員が代わって紹介するなどの支援をしました。生徒にとって、間違えることにとても抵抗があり、自分の意見はなかなか言い出しづらい実態にあります。どんな意見も「なるほど!」「おもしろいね!」と言い合える

学習になったことは、詩の理解を深めること以上に、詩に親しむことが達成できたのではないかと体感し、喜びを感じています。

おわりに

生徒たちはいま、タブレット端末や携帯で動画を見たり、ゲームをしたりといった余暇が日常に浸透しつつあります。ネット上には「お話」があり、「世界観」が繰り広げられています。音声での言葉の情報もあふれています。そんな中で、映像刺激のないマルチメディアDAISY図書の読み上げでイメージを膨らませることはとても新鮮だったのではないだろうかと感じています。学習を通して、詩や本に親しむ機会が増えたということにはまだまだいきませんが、間違いなくその垣根を低くしてくれたことと思います。視聴したいマルチメディアDAISY図書をタブレット端末に入れて朝の読書に読むなど、これからも積極的に親しむ機会を作っていこうと思います。

